

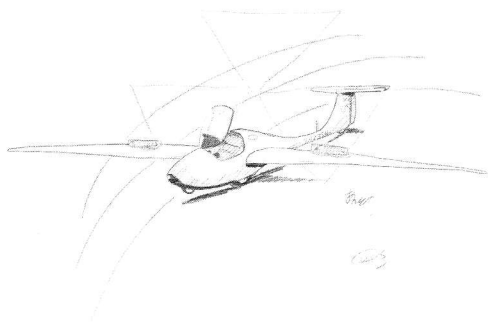
アイオーンIIの近況

監督 窪 田 昌 三

創部50周年記念として、OB 諸兄の絶大な御協力で購入して戴いた単座機・ASK-23型「アイオーンII」は、毎合宿に活躍し、高性能機による練習の効果は、徐々にではあるが、成果を上げつつあります。昨年の全日本学生選手権大会における新庄博志君の6位入賞。昨年度、関西・東海学生選手権における個人(大野剛嗣君)・団体共2位入賞等が、それを表わしているといえましょう。完全に乗りこなして、その性能を100%引き出す域には、まだ達していませんが、3年生で充分に乘れる操縦性の良さは、機種選定に当たりの判断が誤りではなかったと、安堵しています。

機会ある毎に、現役学生には『OBの御協力に報いる道は、唯ひとつ、アイオーンIIと一緒に、全国大会で上位入賞をする以外になし』と檄を飛ばしております。アイオーンIIが飛び始めて2年、全員がその取扱いにも慣れてきましたので、彼女を箱入り娘にせず、どんどん飛ばせてゆき、近い将来、ご期待に応えるべく、現役と航空部の躍進を誓い合っております。

(昭和39年卒)



1本のろうそくで……

主将 大 野 剛 嗣

航空部生活が3年目となり、私は、幸か不幸か主将という役職に就くことになった。一昨年は、航空部創立50周年というすばらしい年であった。諸先輩のみなさまは、充分、航空部に打ち込んでおられたと思いますが、ここ3・4年の間に航空部のサークル化現象がみられる。

確かに居心地は年々良くなってきている。しかし、せっかくの354や96に乗り、競技会での勝負に勝ってやろうという、いきのいいやつが出て来ない。同志社主催の合宿だけでお茶を濁すやつばかりである。この部の体質として、人に嫌な仕事を無理に押しつけたり、引き継ぎが不十分であったり、すべて成り行きで失敗して、進歩を見せようとはしない。

暗い暗いと不平をいうばかりで、自ら明りをつけてやろうという人間は生まれないのであろうか。私が新主将となるにあたっての決意は、どれだけこの航空部を発展させるかということである。真っ暗な穴の中である。しかし、私は幸運にも1本のマッチを探しあてることができた。浮田がマッチ箱を持ってきた。2人の力で小さな明りをつけることができた。すぐに消えかかったが、山口と太田が1本のろうそくを持ちよって持ちこたえることが出来た。みんなが1本のろうそくの明りで、他に多数のろうそくを探すことが出来たら、そして、それに火を点す^{トモ}ことが出来たとしたら、暗闇の向こうにはすばらしいものが見えるはずだ。

(3年・商)

航空部に入部して

松 田 剛

高校生の頃、初めて航空雑誌を見た。そこには真っ青でとても美しい空と、真っ白で綿菓子のような雲を背景にして、空に浮かぶ戦闘機の写真があった。その音のない美しい世界に、何故か非常に感動した。自分の身近に存在しない世界、こんな世界に入りたいと思った。その時以来、航空機に興味を持ち、空を夢見るようになった。

それから数年後、同志社大学に入学。部員勧誘で展示されたグライダーに魅かれて、航空部へと足を運んだ。

不安と緊張で迎えた初合宿。それまで地上に置かれた姿しか見たことのなかったグライダーが、目の前で初めて地面から離れ、空の中へ。そして、初フライト。あっという間に終わった。たった15分の生まれて初めての体験。感激であった。

自分は航空部に入部してグライダーパイロットとなった。より上手く操り、思い通りに翔んで、あの感動の世界を見つけたい。

(1年・工)



機体組立練習

初 合 宿

富 田 行 男

期待と不安がいっぱいで始まった、5月の同志社新人合宿。初日は、機体を組んで地上安定をした。実際のフライトでは、その時した程の荒い舵を使うことはなかったが、初めてグライダーのコクピットに体をおさめた記念すべき一瞬であった。そのコクピットの中は、思っていた程広くはないように感じられた。しかし、その中には、いろいろな計器類があって、一度にこんなにたくさん見られるだろうかと思い、不安になってしまった。次の日、初めて機体を押して、ラン・ウェイに押し出した。しんどいと思っていたが、それ以上に距離の長いことに驚いてしまった。それからは雨で待機の連続、何か拍子抜けしたような、ホッとしたような気持ちであった。そして、待ちに待った初フライト。報告も点検も何一つ満足に行えずに搭乗した。そして、パイパーに引張ってもらい、大地から離れ、そして、高度 600m まで上昇して、離脱。自分一人で操縦した時、言葉では言い表わせない気分になった。15分間という、短く、そして長い初フライトをおえた時、別の世界を見たような感じがした。二度ともどって来ない学生生活に、自分をかけられるものはこれしかないという実感を身にしみて感じた。

(1年・工)

初ソロの景色

小 溝 ひ ろ み

同志社の9月合宿で、もう一步のところ^でソロに出られなかった私は、次の龍大合宿に2日間だけ残ることにした。9月15日、龍大合宿での1発目の塔乗を告げられた私は、「チェックかもしれない」と、若干緊張しながら256に乗りこんだのである。出発、そして高度180mくらいで、いきなり索が切れた。とにかく機首を下げ、小場周を描いて着陸。頭の中のパニックがまだ冷めやらぬ中、尾関教官の「行ってこい」という、ありがたい一言をいただいた。

ピストへの報告もそこそこに、再び256に塔乗した。離脱、そして左へ旋回。その時見た景色は、今でも忘れられない。見慣れているはずなのに、初めて見る様な明るい空と地上を見ながら、「この景色のために、今までのフライトがあったんだな」と、初ソロの実感をかみしめた。

これからグライダーに乗っていて、又、あの様な景色を見ることができるだろうか。そう思うと、また一つ、グライダーに乗る楽しみが増えたような気がする。

(2年・文)

大空のライセンス

山 口 智 啓

何よりも初ソロから話ははじまるといえます。「初ソロ」にあこがれること数年、パイロットにあこがれていた少年のころから数えると……。2年の4月30日にその日はやってきました。それは、関西支部の同学年一番乗りでしたが、2ndまでは遠く4ヶ月以上もかかってしまいました。Ka-6Eも苦しみました。12月合宿でチェックに通り、シート慣熟をしながら強風でダメになり、2月合宿での初Ka-6Eの時は、初ソロ以上に緊張し、足がふるえてしまいました。この時の静かな風切り音と反^ソった翼のことは、今でも忘れられません。

× × ×

A/Tソロ。初合宿で、次々にソロに出ていく先輩を見ていて自分もいつかは、と2年半夢みていたものでした。しかし、A/Tソロは遠いもので、同学年の友人達が、次々とA/Tソロに出るのをあせて見ていましたが、昭和62年8月7日、とうとう僕にもその日がやってきたのです。ソロ前のフライトは、自分でもまあまあだなと思って、機体からおりて講評を受けていると「次は1人でいっておいで」と、有り難いお言葉。256で用意をしてセットまでしたけれど、パイパーからのラジオで358に変わるというハプニングはあったものの、何とか1人で飛びました。2度目のソロは32発目のソロということもあって、余裕のあるフライトであり、約1ヵ月先の自家用実地の練習をするのに必死で、感動しているどころではありませんでした。しかし、その日みんなにシェイクをおごらされて、ああ、やっぱりソロに出たんだと感動しつつ布団にもぐりこみました。

× × ×

報告とお願い

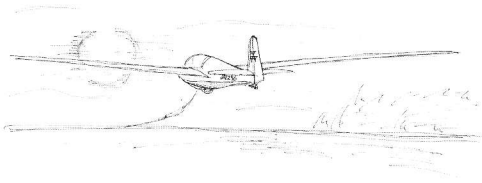
主務 浮 田 勝 成

昭和62年9月5日、自家用実地合格の日です。ここまではけっして楽な道ではなく、苦しみの連続であっただけに、うれしさも人一倍のものでした。

そして、経歴も申請1週間前になんとかそろえることができ、9月の受験合宿へのぞみました。フライトは、なぜかいつもより冷静に飛べ、今までのフライトの中で5本の指に入るフライトが2発続いたのです。そしてオーラルでは、知ることばかり聞かれラッキーでした。ただ、索の太さと強度の値を間違えた時は、自分でもびっくりしてしまいました。そして「合格とします」と言われた時は、心の中でガッツポーズをしていました。

こうして、何とかライセンスを手にすることができましたが、これから全国大会にも出たいし、教官にもなりたいという大きな夢もあります。そのために、これからまだまだ腕をみがいていきたいと思っています。

(3年・文)



『飛ぶのが商売』が航空部でありますから、まずはフライト関係から紹介致しますと、5月末に新人合宿(福井空港)。新入生に馴染んでもらうのが目的ですので、上級生の発航を新入生にまわして飛んでもらいます。

9月上旬に合宿(木曽川)があり、2年生の初ソロが多く、彼等に対しては心のこもった(?)お祝いがあります。これで初ソロは彼等の記憶の中に、強烈に焼きつけられることでしょう。10月中旬から11月上旬にかけ、東海・関西競技会、同立戦と、Bigなイベントが目白押し。今年の行事につきましては、既に皆様の御存知の通りです。11月中旬には東海・関西新人戦が、下旬又は12月上旬のEVE祭(当校の学園祭)期間中に合宿(木曽川)があり、2月上旬にも同様に合宿(木曽川)があり、3月上旬の全国選手権に向けた選手権のフライトの最終チェックが行われます。そして、全国選手権に当校代表を送り出します。

又、所有機の耐空検査前には、適宜、整備合宿も行っております。

そして他の行事ですが、新人合宿に前後して新入生歓迎コンパを、9月の合宿終了後、幹部交代式。全国選手権終了後には追い出しコンパが行われます。

次にOB会員皆様へのお願いですが、当校主催の合宿に1人でも多くの方々にお来し願いたいということです。立场上、皆様と話をする機会が多く、現在の私達では体験できない様な“空”の話しに出会うことができます。皆様の御尽力の御陰をもちまして、機材や活動環境は、昔とは見違えるものがありますが、新入生等は、それが当然と思う者も出てくるかもしれません。現役学生は、“今”を知っていますが、“歴史”というものを

知りません。「翔友」で知る事のできない、「今だから言えるけど…」というような話に出会えたなら、学生は喜んで話をうかがうでしょう。

なぜなら、皆様の話をうかがう機会が多いのは、主務である私なのですから。

(3年・工)

航空部活動報告

(自 昭和62年4月～至 昭和62年12月)

昭和62年5月21日～5月26日	新人合宿 新人7名(1年生6名、2年生1名)参加 総発航回数56回	福井空港
7月26日～7月28日	整備合宿	田辺格納庫
9月5日～9月14日	9月合宿 総発航回数372回	木曽川滑空場
10月10日～10月11日	整備合宿	田辺格納庫
10月18日～10月25日	東海・関西学生グライダー競技会 2チーム(大野・3年、太田・3年) (森川・4年、山口・3年)出場 団体2位 個人2位 大野剛嗣	福井空港
10月28日～11月3日	第12回 同志社大学・立命館大学対抗グライダー競技会 両校引き分け(1部競技不成立の為) 通算成績 5勝4敗3分け 2部競技 1位 小馬 康史(同志社2年) 2位 小溝ひろみ(同志社2年)	福井空港
11月19日～11月24日	東海・関西学生グライダー新人競技会 小馬康史・小溝ひろみ(共に2年生) 団体4位	木曽川滑空場
12月3日～12月8日	12月合宿 総発航回数255回	木曽川滑空場



部員一同、威儀を正して、ごあいさつ